

30-3 経営協議会議事概要

日時 平成30年9月21日（金）13:30～15:10
委員 駒田学長（議長）
志田，銭谷，高木，西岡，向井，村本，渡辺
山本，鶴岡，尾西，加納，尾藤，伊藤 各委員
列席者 富樫，野崎，橋本，堀 各副学長
服部監事，山中監事

◎学長から，退任した委員の紹介があった。

◎議事概要の確認

30-2の議事概要(案)について，了承された。

I 審議事項

なし

II 報告事項

1. 平成31年度概算要求事項について

尾藤理事から，「資料：報-1，参考資料1」に基づき，平成31年度概算要求事項についての報告があった。

2. 工学部総合工学科設置報告について

畑中工学研究科長から，「資料：報-2」に基づき，改組により平成31年4月に設置する工学部総合工学科についての説明があった。

<主な意見>

○現行の1学部6学科を1学部1学科5コースにした目的は何か。

→教育・研究の面では，学科の枠を超えて教員がフレキシブルに対応できるようにすることで，時代や社会の変化に即応できる体制を目指している。また，学生にとっては，入学時から専門を決められない学生もいることについて高校からの要望もあることから，定員を限定して「総合工学コース」を選択できるようにし，1年次に工学共通の専門知識を習得させ，2年次にコースの配属を決めることができるようにしている。

○修士一貫コースは，修士を修了した学生が，社会に出てすぐに順応できるようにするための実践的な教育を目指しているのか。

→そのとおりで、実践的な力を持った人材の輩出を目指し、また、工学部をそれができる体制にしていく。応用研究が重視される分野が多々あるのだが、体制が整っていない部分もあった。社会に出てすぐに役立つような教育をする一方で、すぐにではないが将来的に社会のためになる基礎的な研究についても大切にしていきたいと考えている。

○学部修士一貫コースの修了者は博士課程に進学できるのか。

→進学できる。長期インターンシップを履修して博士前期後期の一貫コースに進学した場合、学部の卒業論文や修士論文を書かずに博士号を取得できるという懸念も出ているが、論文作成と等価で、より実践的なものを修めさせるという方向で4年後の改組を考えている。

○自動車業界は100年に一度という大変革の時代であるが、企業において工学部出身者が社長や役員になっているのを目にする。大変革の時期に、従来とは異なり、マネジメントより現場をよく知る者が抜擢されていると感じる。工学部の重要性は更に増していると思うので、是非頑張ってもらいたい。

3. その他

(1) 次回開催について

平成30年11月20日（火）13：30から開催することを確認した。

Ⅲ 意見交換

1. 三重大学における入試制度の現状と入試改革への取組みについて

(資料：意-1, 参考資料1・2)

山本理事から、「資料：意-1, 参考資料1・2」に基づき、三重大学における入試制度の現状と入試改革への取組みについて説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

○地域枠の制度は非常に大事と考える。また、入試制度については、高等学校や受験生に対し、きめ細かく情報提供をしていただきたい。

→公立私立の高校の校長先生には、6月の大学戦略会議においてプレゼンテーションをしていただき、ご意見を賜った。その後も、校長先生や進学指導の先生と意見交換を行った。高校側の意見も聞きながら、優秀な高校生を選抜できるような入試改革を進めていきたい

○私学は早い段階から面接だけの推薦入試なども取り入れているが、三重大学はどうか？

→現在、学力試験を課している面接と課さない面接がある。特にAO入

試については、入学後に専門の授業についていけないという事態を多々抱えたことの反省から学力検査にあたるものを課しなさいという国大協の方針もあり、本学もそのような方向で検討している。

- ある方面において大変優秀で才能のある学生が、AO入試で入学した後に学業についていけないというのは、難しい問題と思う。
- また、AO入試や推薦入試は早い時期に合格者が決まるが、合格した学生は、その後の勉強が疎かになる。そのようなことを防ぐために大学としては入学前プログラムをしっかりと立てるなどフォローして、入学当初からしっかりと学力がついた状態で大学の授業についていけるように配慮をすることについても強調されてきている。
- 文部科学大臣の下にSociety5.0に向けた人材育成に関する検討会があって、これからのAIやロボティクス等の先端技術が高度化する時代の教育の在り方等について議論していたが、夏前にその検討結果のレポートが出た。その中で、今の高校生は2年生で文系と理系に分かれるので、特に私立文系を目指す高校生は数学や物化生地をほとんど勉強しなくなり、このことは日本の将来の人材面において非常に問題ではないかと指摘されていた。高校で文系7割・理系3割、大学で文系5割・理工系2割、他は医学・教育・芸術等ということで、ヨーロッパに比べると日本は理工系が非常に多いと思っていたが、実際はそうではないため大変危機感を持っている、といった内容で、高校・大学での理工系の教育をもっと充実しなければいけないと感じた。
- 大学入試において細かく専攻を分けるのは、今の高校生には適さないと感じている。工学部を改組して6学科を1学科5コースにするというのは、非常に面白い試みだと思う。個人的には、総合工学コースを主流とし、また、「学部修士一貫(3+3)コース」を1+2+3として、初めの1年で幅広く工学を勉強し、次の2年でコースを決め、残り3年で修士論文を作成する、というような形も良いと思ったが、いずれにしても3+3というのは非常に良い試みと思った。入学試験は、優秀な生徒を確保することを絶えず考えて、学科構成やコース設定をすることが必要であり、あまり細かく分けない方が良い。
- 初等中等教育、高等学校で起きていることは、やがて必ず大学でも起きると考えている。以前は小・中学校でしか問題にならなかったことが高校で問題になり、やがて大学でも問題になる。例えば不登校やいじめ、引きこもりといった問題もどんどん年齢が上がってきていると思う。かつて高校入試で起こったのは、2学期にAO入試や推薦入試によって多くの中学生を高校が確保してしまったために、年が明けて2~3月の一般入試ではほとんど受験生がいなくなるのが問題にな

った時期があった。いろいろ入学試験の工夫をされているのはわかるが、AO入試とか推薦入試というのは定数を絞った方が良いと思う。三重大学はきちんと学力を測り、資質・能力を見て学生を取る大学、一般入試が主流である大学であって欲しい。

- 英語の試験については、まだよくわからないところがある。CEFRが本当に共通の物差しになるのかという意見もある。外部による認定試験の活用も、国大協の方針に従って実施せざるを得ないとも思う。
- 大学ごとにアドミッションポリシーがあって、本来ならばそれに則って入学試験を行って学生の選抜を行う。しかし、現実的には募集倍率の低い学科は手加減を加えないと学生が集まらないという状況になっており、一方で倍率の高い学科もあるのでアンバランスが生じる。
- 三重大学の看護学科では選択試験に国語を加えているが、記述式の試験が増えているのはどういう理由か。
→「多様」「総合的」というキーワードや、高校側との意見交換を踏まえて検討し、入学試験に反映した結果である。高校側としても、受験科目が少ないのは指導する上で難しさがあるという意見もある。
- 私学のあるコースでは来年から国語を必修の受験科目にすることになった。理由は、最近の学生は作文能力がない、英語も大切だがまず国語が重要だ、という教員の意見が多かったからである。私学の場合、受験方法が何種類もある。推薦入試にも、学校推薦、自己推薦、論文があるもの、論文がなくて基礎テストがあるもの等いろいろである。そのほかにAO入試がある。入学試験はシンプルが良いと考えるが、他大学の状況を聞くと実際に何種類も行っており、中には20種類以上もある大学もあった。少子化で学生が集まらない状況になると学生の望んでいる方法で受けさせたいという配慮が出て、そうなるようである。国立大学の入学試験も多様化していると感じるが、国立大学は堂々と構えて試験をやっても志願者はたくさんいると思う。
- 学生の学力低下も問題になっている。卒業時の国家試験の結果にも表れるので、優秀な学生を確保すべく検討を重ねているが、なかなか良い方法がない。どの試験で入学した学生がどのように良いのか悪いのかというデータについては、いずれIRの報告があると思う。
- 受験指導をされている先生の話だが、志望大学をどのような方法で受験できるか、どの受験方法の合格率が高いかといったことを助言したり、提出する小論文もほとんど先生が書いたりすると聞いて疑問に思っている。また、地域枠は三重県の南の地域のために実施されているが、塾がたくさんある北中部地域に移りたいという学生に対し、地域枠を受けるためにはそのまま南部にいた方が良くと助言するとのこと

で、これも本末転倒だと思う。希望の大学や学部に進学するためにしていることだが、日本の大学や、大学生の将来のことを考えると、それはおかしいと常々思っている。

- 入学試験の在り方を見ていると、文系と理系、学部によっても異なっている。例えば、推薦入試は工学部以外、AO入試は工学部になっているが、学部の入学試験の方法は、どのような基準で決められているのか教えていただきたい。
- アドミッションポリシーに合った入試選抜制度を行い、アドミッションポリシーに合った学生を得るとというのが大前提である。これまで、教員たちがアドミッションポリシーにいちばん適した方法について議論し、結論を出してきた。本当に最善の方法を決めることは実際難しいと思う。入学試験の方法を常に見直し、変えていかなければならないが、受験生の準備を考えると、入試制度の改革や変更は2年前までに行う必要があるので、多少遅れている感があるかもしれない。
- 時間が経過すると、最初の思いとはだんだん変わってくるところもある。今一度原点を見直すことが、どの大学にも必要なことかと思う。
- 企業家の立場から見て、学生の能力が低下していると感じる。企業でも3か月に1度職階別に研修を行っている。三重大学は、今年度の入学者が三重県40%、愛知県33%ということであるが、総合的に学部を持っているので、三重県内はもちろんだが、高い次元から人材教育を行って欲しい。企業にとっては、人材は県外からでも構わない。海外の研修生を受け入れるなど、グローバル化も始まっている。また、高校卒と大学卒との所得差が現れていることから、大学の在り方はとても大切である。県外からも人を集め、魅力ある三重県を作っていくことが大事だと考えているので、大学には引き続き強力な人材育成をお願いしたい。
- 英語の認定試験活用では、CEFRのスコアにより加点することとなっているので、そこである程度のレベルが担保されると思う。国語もとても重要だが、ある程度は英語が基準になるということがある。本来、大学はこれから社会に出ていく人材の育成をしなければならない。そこでの教養教育はとても重要になってくる。AO入試は、非常に優秀で特別な能力を持った学生もおり、良いと思うが、大学のアドミッションポリシーに合った学生を取らないと、入学後の学業についていけず、中途退学者が増えるというような事態にもなるし、その学生を進級させようとするすると全体のレベルを落とすことになる。地域卒も、良い面もあるが、受験する側の高校の先生や親や本人から見れば入りやすい制度であるため、地域卒の学生が入学後の学業を相当頑張

らないといけないということが当初あり、それがわかってきて、ようやく高校側も地域枠の学生のレベルを上げてくれるようになったということがあった。いずれにしても、学生の入学後のことを考えると、大学のアドミッションポリシーに合った学生を入学試験できちんと選抜するようにした方がよい。ただ、入学してから伸びる学生もいる。伸びしろのある学生を選抜することも合わせた試験というのも難しいが、そうならただければと思う。

- 医学部の地域枠で入った学生は、いずれ国家試験を受験して合格することになる。もちろん、国家試験の結果だけ見れば良いか、というのはまた別な問題であるが。教育学部も今年から地域枠が始まり、その学生が立派な教員になるかというのは4年後にならないとわからないが、現在、学部でそのような指導をいただいていると思う。
- 入学試験については、大学が学生に対し、入学時点でどこまでその能力を求めるのかということだと思うのだが、個人的には、その方法はできるだけシンプルなものが良いと思っている。どちらかという、誰のために大学入試制度を変えているのかという疑問を持っている。以前のような、いわゆる一発勝負が非常にわかりやすく、却って良いのではないかと思う。一発勝負では運不運などいろいろな問題があるので、多面的に見ようと論文や推薦などを入れてきたが、結局試験には運不運がつきまとうものである。大学受験までの勉強の期間と入学後の大学4年間の勉強の期間というのをどうみるか、例えば、英語の認定試験の話があったが、入学時に英語以外の能力が相当高い学生もおり、その学生が大学の4年間、一生懸命勉強すれば相当レベルの語学の能力が養われる。また、世の中に出て、企業では昇進試験がある。普通の人事考課もあるが、試験自体は一発勝負で、昇格試験を受からないと資格は上がらない。そのようにシンプルな試験も一概に悪くないと考えるのだが、世の中は改革の方向で進んでおり、三重大学も逆行することはできないので、やむを得ないとは思う。
- 地域枠については、三重大学は三重県において、やはり地元の優秀な人材を地元で輩出する大学であり続けて欲しいので、そのために地域枠を設定し、県内の優秀な学生を県内でできるだけ留まらせるための高等教育を行っていただきたい。地元の活性化において役割を果たすのは大学の大きな使命である。一定の地域枠を設け、その地域の学生がある程度入学できるような環境づくりは必要と思う。

以上